

平和への想い

広島平和ツアー体験記

【問合わせ】総務課 ☎84-0613

半田市は、全国に先駆けて非核平和の実現に関する議会決議を行いました。また、日本非核宣言自治体協議会及び平和首長会議にも加盟し、非核平和の実現に向けて様々な取り組みを行っています。その取り組みのひとつとして、次代を担う若者たちに平和の大切さを知ってもらうための「中学生平和研修」を実施しています。

今年は、8月28日(火)及び29日(水)に成岩中学校と青山中学校の生徒8人が広島市を訪問しました。半田市原爆パネル展で、市民のみなさんに平和を祈念して作成いただいた約5千羽の折鶴を研修に参加した中学生が広島へ届けました。みなさんご協力ありがとうございました。



▲研修参加者8名が広島平和記念公園内の「原爆の子の像」前にて撮影

ひさだ り あ
久田 莉愛 さん(成岩中学校2年)

「戦争は何の罪もない人が巻き込まれる。」

この言葉は平和記念資料館のガイドさんから聞いた言葉です。平和記念資料館の中には、正にその言葉通り、悲惨な戦時中の姿がありました。原爆で被害にあわれた方の写真や遺品、焼け破れた服や、溶けたビー玉、黒こげの弁当箱など、目にするもの全てがとても衝撃的で、悲しい気持ちになりました。火傷で皮膚がはがれた写真も見ましたが、痛々しく直視することが出来ませんでした。

夜の平和講話では詳しい話を聞き、原爆によって14万人の方が亡くなり、戦後73年たった今でも被爆によって苦しみ続けている方がいるということを教わりました。

今回の平和研修で、原爆の恐ろしさを学びました。大勢の人の命を一度に奪ってしまう戦争は二度と起きてほしくないです。戦争は悲しみしか生まれないからです。私は、世界中の国が互いに認め合い、広島悲しい過去を忘れないことが平和への第一歩だと思います。

やまもと ちさき
山本 千咲 さん(青山中学校2年)

私は今回の平和研修で、戦争の悲惨さ、平和の大切さを学びました。最初、原爆ドームを見た時は衝撃でした。鉄骨がむき出しになっていたり下にがれきなどが残っていて本当に当時のままだと感じました。その後に行った資料館では原爆の怖さが身に染みました。被害を受ける前の広島は、たくさんの人でにぎわっていました。しかし被害を受けた後は同じ地とは思えないほど変わっていました。原爆は大やけどを負ったり、後から病気になってしまったりと人々を苦しめ続ける最悪の兵器だと改めて感じました。さらに一階で遺品の展示がありました。そこで目にしたのは、焼けた少年の服、穴があいたワンピース。その服を着ていた人はどれだけ苦しい思いをしたのだろう。考えるだけでも怖かったです。

人から全てを奪い、苦しめた核兵器の怖さ、そして平和がどれだけ大切なのか。後世にきちんと伝えていこうと強く思いました。